木更津総合高等学校

就職指導部　小甲　康宏

令和元年度　学校評価における中間評価の報告

点検・評価項目	自己評価 優れている・・３ 適　　切・・２ 改善が必要　・・１	自己点検・自己評価項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
各企業（人事部）と木更津公共職業安定所との連携について、その他	3	求人に関しては、求人依頼が多く新規の企業と東京オリンピック関係（羽田空港内）の求人依頼が多い。特に生徒に対しては、一つの業種にこだわらず、多く求人票を見るように指導している。そして、会社見学に複数、参加申し込みをするように指導し、その後、受験の企業が決定した後、早めに応募書類の準備をさせている。来年度の夏期講習について、一日の講習時間を４校時から３校時に変更を考えている。実践的な内容を考慮中である。	２～３年前から、特に技術系において、地方出身者を採用していた企業が地元の出身者を多く採用する傾向が目立つ、その背景には、地方出身者に専門的な技術職に育成しても、１０年ぐらい勤務すると地元に帰省するので、千葉県南部（君津郡市）の出身者の採用を多くしている。
公務員試験対策について	3	今年度は、公務員希望者が昨年度に比べて多少、減少している。公務員試験に対して情報不足（学習方法等）が関係している。今年度の生徒の動きが今一歩、鈍いのでより一層指導に工夫が必要なので、過去の筆記試験内容と面接試験について指導している。また、集団面接等についても同様に一から指導するように心がけている。	公務員の説明会に、参加が目立つようになったが、いずれも学習方法が良く分からない生徒が目立つ。補習にも積極的に参加するように促している。筆記試験だけでなく、面接試験が重要視されてきているので、その対策が必要である。
インターンシップについて	3	進路先が就職・進学にかかわらず進路選択に役立ったと思う。また受け入れ団体からも真面目に仕事に取り組んでいたと好評であった。新規の受け入れ団体からの要請が多くなる傾向が見られるので、ある程度の受入数に達したら固定したいと思っている。	数年前は、多くの生徒が参加を希望する姿が見られたが、今年度は、同じ生徒が複数社参加を希望していた。公務員関係にも受け入れ可能な団体が増えてきた。
受付実践について	3	来校者の方との応対が初めての経験なので、言葉遣いや、一つひとつの動作にも気を遣い緊張をしている様子がうかがえる。来校者の方にもご理解が必要であるが感想は、新鮮でとても良いと好評である。	教員間でも受付実践が認められるようになってきている様子。面談室１～３の利用方法について工夫が必要である。
その他	2	就職指導部内の事務手続き、生徒との伝達方法、外部への連絡事項の留意を確実に行う。	特に外部との連絡事項や確認事項は、複数の教員で行う。